

## 人は変わっても 組織は永遠であれ

N T T 労組大阪支部  
初代執行委員長 岩橋 栄



退職者の会大阪支部協議会10周年おめでとうございます。思い起こせば1998年の全電通労働組合の組織改革により、N T T労働組合に衣替えして早10年を迎えようとしていることに感慨も新たにしています。当時、大阪には東部、北部、南部の3支部があり、組織改革により3つの支部が1つになり、N T T労働組合大阪支部として再スタートしました。私はその初代委員長として、歴史も、運動スタイルも違う3つの支部をどう1つにまとめていくかに苦勞したことを思い出しますが、退職者の会もそれぞれの支部協が1つになったことで、同じような思いをされたのではないかと推察いたします。今は亡き初代会長の大庵さんのご尽力に改めて心から敬意を表したいと思えます。

私が大阪支部委員長を務めていた4年間は全電通からN T T労組へ変わった最初の4年間であり、会社組織も持株会社の下にN T T東西会社ができるなど、大きく様変わりをした時代でした。確かその時は、まだ現役の組合員数が退職者の会員数より若干多かったような気がしますが、退職者の会の会員の皆さんが現役の数を上回るのは時間の問題だ、そうなったら退職者の会の会長の言うことは何でも聞かなければならないなあ……と密かに心配したものでした（笑）。大庵会長とはいつも「現退一致」を合言葉にそれぞれの課題について協力しながら取り組んできましたし、西本部に行ってから現在の鷺谷会長を始め退職者の会の皆様には多大なるご支援、ご協力をいただきました。心から感謝申し上げます。また、先の参議院議員選挙においては、組織内候補「吉川さおり」の当選に向け、大きなお力添えをいただいたことについて、山田大阪総支部委員長からもお聞きしており、大きな声では言えませんが、いまや現役を凌ぐ勢いではないかと思っております（汗）。

私は2006年8月末をもってN T T労働組合の専従役員を退任いたしました。思えば昭和43年に大阪中央電報局に採用されて以来、大阪一筋の労働運動人生でした。人は変わっても組織は永遠であって欲しいと思うのはそれなりの年齢を重ねた証拠でしょうか。これからも組織の皆さんや退職者の会の皆さんと共に歩んでまいりたいと存じますので、今後ともどうぞ宜しくお願い申し上げます。

大阪支部協議会の今後益々のご発展を心からお祈り申し上げご挨拶いたします。

## 10年間の検証 総括が大切

NTT労組退職者の会 大阪支部協議会  
初代事務局長 田宮 勇



10周年、おめでとうございます。そして役員の方皆さん、ご苦労様でした。

想えば東部、南部、北部、ネット、関中の5支部協を解散、統合して、大阪支部協議会を結成、一県一支部協体制が発足した10年前のあの年も、今年程ではなかったが、結構暑い時期でした。職域を基盤とした退職者組織を、居住地を基盤とする運動体に変えて行くという訳ですから、結構難しい課題が山積していたように思います。

旧支部協の作風の違いや、役員等の確保に加え、急速に変化する生活のニーズへの対応など、ご苦労の連続であったでしょう。歴史を語り継ぐ節目として10年という周期は短いのか長いのか、よく解りませんが、今年は参議院で与野党逆転の夢が実現し、10周年を締めくくるページに輝かしい見出しがつけた事は喜びに耐えません。

この機会に、我々はこの10年間に世の中が、どう動き、何がどう変わったのかを、じっくり検証し、総括することが大切だと思うのです。

これからの10年が、どんな軌跡を描くのかを予想することが極めて困難な時代になっています。世界も、日本もそして我々国民の生活もさらに大きな変革の嵐に見舞われそうな予感が致します。自然界の災害も忘れてはならない段階にきています。

そんな時にこそ必要なのが、ささやかでも温かく、強い連帯のきずなでありましょう。働く者の権利と幸せを守り抜こうとする現職組織の営みの伝承は、退職者の会のバックボーンとしても永遠であって欲しいと念じてやみません。

大阪支部協議会の前進と会員の皆さんの健康を心からお祈り申し上げます。

## 大阪支部協議会・歴代役員名簿

年 度	1998	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006
会 長	大庵芳運	大庵芳運	鷺谷 憲	鷺谷 憲	鷺谷 憲	鷺谷 憲	鷺谷 憲	鷺谷 憲	鷺谷 憲
副 会 長	鷺谷 憲	鷺谷 憲	松山 誼数	松山 誼数	松山 誼数	松山 誼数	松山 誼数	松山 誼数	松山 誼数
	小林 保	小林 保	植村正和	植村正和	植村正和	植村正和	植村正和	植村正和	植村正和
	神田トミ子	神田トミ子	木村敏子	木村敏子	木村敏子	木村敏子	田伏ノブ子	田伏ノブ子	田伏ノブ子
			太口昭一	太口昭一	太口昭一	太口昭一	太口昭一	太口昭一	太口昭一
			古布 充	古布 充	廣道 襄	廣道 襄	廣道 襄	廣道 襄	廣道 襄
				森川伊津美		大串チエ	大串チエ	大串チエ	
事務局長	田宮 勇	田宮 勇	小林 保	小林 保	小林 保	小林 保	小林 保	小林 保	小林 保
事務局次長	松山 誼数	松山 誼数	大橋善一	大橋善一	大橋善一	大橋善一	森川伊津美	森川伊津美	森川伊津美
	西田好史	西田好史	高瀬泰幸	高瀬泰幸	南出正明	南出正明	浅利哲夫	浅利哲夫	杉本伸二
幹 事	玉谷康彦	玉谷康彦	玉谷康彦	田中康夫	古布 充	古布 充	古布 充	古布 充	古布 充
	磯川 涉	磯川 涉	田中康夫	満塩静夫	田中康夫	田中康夫	大橋康子	大橋康子	大橋康子
	木村敏子	木村敏子	満塩静夫	山田忠夫	佐々木鳴美	佐々木鳴美	前中良介	前中良介	前中良介
	古布 充	古布 充	山田忠夫	大串チエ	山田忠夫	山田忠夫	山田忠夫	山田忠夫	山田忠夫
	大串チエ	大串チエ	大串チエ	森川伊津美	大串チエ	大串チエ	谷口次作	谷口次作	谷口次作
	大橋善一	大橋善一	森川伊津美	田中 豊	田伏ノブ子	田伏ノブ子	川崎孝子	川崎孝子	川崎孝子
	田中 豊	田中 豊	田中 豊				加戸幸男	加戸幸男	加戸幸男
	佐々木鳴美	佐々木鳴美	佐々木照子				仲宗根 功	仲宗根 功	仲宗根 功
	丸山嘉子	丸山嘉子							
	植村正和								
会計監査	植村正和	植村正和	上田 収	上田 収	上田 収	上田 収	上田 収	上田 収	上田 収
	佐々木照子	佐々木照子	厨子芳枝	厨子芳枝	厨子芳枝	厨子芳枝	厨子芳枝	厨子芳枝	厨子芳枝
	上本紀代美	上本紀代美	上本紀代美	今城千加子	池尻泰顕	池尻泰顕	池尻泰顕	池尻泰顕	池尻泰顕
願 問			大庵芳運	大庵芳運	大庵芳運				

## あとがき

10周年記念誌の作成は会報「摂河泉OB」編集委員の担当と決まりました。資料としては、定期総会の議案書・会報・常駐日誌です。しかし、退職者の会という活動は、現役の組合のように激しい動きがあるわけではなく、日常の活動の主たる業務は、退職者共済とイベント、会報の発行であり、いわゆるその年の特徴的な問題が少なく、何を話題にすればいいのかという悩みがありました。

幸い大阪支部協では地域ブロックへの移行という結成以来の課題への取り組みがあったこと、イベントについても「いきいき講座」など他支部協にはないものがあったこと、また、3年と歴史は短いですが、ヒロシマ・ナガサキへの献鶴という平和運動に取り組んだことやホームページの開設、さらに、各ブロックによる創意を凝らした特色あるイベントが行われたこと、等々から年代ごとに変化をもたせることがどうにかできたと思います。しかし、案外ありそうでないのが写真です。最近の写真はあるものの、古い写真はあるようではありません。時間があれば広く呼びかけて収集できたかもしれないのですが、やむなく会報の写真を使用し、鮮明さに欠ける写真となったものもある点はご了承ください。

歴史から学ぶという視点から見れば、本来ならこの10年の社会の動きを併記し、その動きとのかかわりなども触れるべきかと思いましたが、限られた紙面と短期間での作成ということで記載できませんでした。そのような点から運動史というものにはならなかったと思いますが、「ああ、こんなこともあったな」という思いを少しでももってもらえれば幸いという視点で、編集委員一同取り組みました。10年という一通過点の記録ですが、次につながるものとなれば幸いと思います。

2007年10月

編集委員 小林 保  
松山 誼数  
植村 正和  
廣道 襄  
森川伊津美

NTT労組退職者の会  
大阪支部協議会「10周年記念誌」  
2007年10月発行  
発行責任者  
NTT労組退職者の会  
大阪支部協議会 会長 鷺谷 憲  
大阪市福島区福島3-17  
コミュニティープラザ大阪内  
印刷所 原多印刷株式会社